

## TONOMACHI INNOVATION TOWN

### ～多摩川スカイブリッジ開通に伴う殿町キングスカイフロントエリアの多様な人々の交流の場の創出計画～

都市空間生成研究室

1941162 横山 篤志

イノベーション	多様性	交流
水辺空間	持続可能性	建て繋ぐ・建て重ねる

#### 1. 研究の目的と背景

東京都と川崎市が共同で整備を進めている羽田空港と川崎市殿町をつなぐ新しい橋「多摩川スカイブリッジ」が令和4年3月12日に交通開放した。これにより、羽田空港周辺地域と京浜臨海部が結ばれ、両地区の連携によるヒト・モノ・ビジネスの交流が活性化し、国際競争力の強化が期待されている。

また、本研究対象地の反対側に位置する羽田エリアは近年再開発が進み、海外からの来街者はもちろん東京側からの来街者への需要も高くなる。

そして本研究の対象地の殿町エリアに目を向けると、近年再開発が行われたことで、日本の将来を担う研究施設と大学、東急REIホテルと、ワーカー・学生・来街者という多様な人が集積するエリアとなっている。しかしながら、その開発はただ孤立した建物を立ち並べた建て替えであり「開発という名の建物を建ててまちを閉じる」という行為になっており、まちとしての繋がりや魅力を失っている。よって、研究者同士のつながりや住民と来街者の繋がりなどを生む外の空間が少なく、交流が生まれていない。

そこで本研究の目的は、殿町地区の歴史的背景の変遷や周辺環境とのつながり、空間の分析から、「住」「楽」「業」「学」「育」「健」の6要素に関わる人々が循環し、充実した都市空間を創出することである。その空間は誰もが自由に出入りでき、出会い、アイデアをぶつけ合うことができる開かれたイノベーションの場である。



図1 計画対象地

#### 2. 殿町のまちの実態

##### 2-1 川崎市川崎区殿町の歴史的背景

1938年にいすゞ自動車の工場が操縦を開始し年々工場が増やしたが、2004年に乗用車製造事業からの撤退とリストラに伴い移転。そしてその翌年にURが本計画地を買収し、土地区画整備を開始。そして現在の研究所が立ち並ぶ医療の最先端の施設が集う場所になっていった。

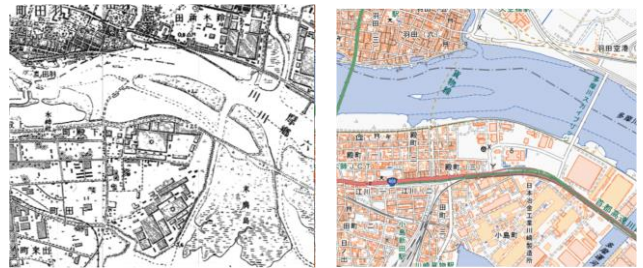


図2 殿町の地理院地図 (左: 1965年・右: 2022年)

##### 2-2. 殿町エリアと周辺環境との繋がり

川崎市殿町地区のキングスカイフロントの周辺環境を見てみると、現在の要素として「住(住宅・小学校)」「楽(東急REIホテル・公園)」「業(研究施設)」「健(ジョギングロード・サイクリングロード)」が存在する。しかしながら各要素が空間として個別に仕切られており、互いに繋がりを持たず、相乗効果を生み出せていない。

本計画地に住民が足を運ぶことは、現段階では少なく、研究施設が集結しているエリアで研究者×住民という交流は見られない。しかし、イノベーションを起こすにはこのまちに住む人の協力が必須であり、エリア全体の活性化に欠かせない。

##### 2-3. 殿町地区内の繋がり

計画対象地に目を向けると70機関の研究施設が立ち並んでおり、約5000人の就労者がいる。エリア内での研究者同士や住民と研究者などの異種の交流によるイノベーション創出という面では、大規模な産業施設の展開によって成り立った閉鎖的な施設の在り方に課題があり、改善しなくてはならない。

### 3. 計画内容

#### 3-1. 計画コンセプト

多様な背景を持つ人々・世代・文化の交流を促すとともに、「住」「楽」「業」「学」「育」「健」が循環し、充実した都市空間を創出する。

そしてその循環するそれぞれの空間の中で背景の異なる人々が出会い、会話し、新たな発見を生み出していくことでイノベーションが起きる。そこにイノベーションという新たな体験を求めに日々人がこの場所に集う。このように人が集積するサイクルが成り立つ。

#### 3-2 計画概要

本対象地は2001年にUR都市機構が土地を取得後からの開発によって孤立した建物（研究施設）が増え、まち全体として空間的繋がりを持っていない。そこでこのまちに多様なアクティビティ空間を、レイヤーを重ねて配置し、空間を一続きにして繋がりを持たせる。よって重層的な人の活動を生み出し、新たな出会いを創出し、あらゆる場所でイノベーションを巻き起こす。

#### 3-3 詳細計画

##### 3-3-1 水辺空間

多摩川が前面に開かれ、緑につつまれ、都市と自然が調和した魅力的な空間において憩いとワクワクが得られる水辺空間を実現する。具体的には多摩川をより近く感じることができるウッドデッキの整備、水辺アクティビティの促進を図るための空間づくり、また釣り具やボード等の貸し出しを行う。この整備によって、水辺空間への多方向からのアクセスが容易になり、住民と施設で働く人々の新たな回遊とアクティビティエリアが生まれる。

##### 3-3-2 イノベーション広場

広場では、産官学民のあらゆる人たちや、将来共に日本を背負う若者たちが集い、議論や会話を繰り返し、思いがけない発見や成果につながるような多様な人材が集う場所である。そのため、誰でも利用可能なアーチ形の階段を設け柔らかい印象の中で会話を促し、時にステージとしても利用される空間を設計した。その他に運動促進のために卓球台、駐輪場の配置をした。

##### 3-3-3 施設内

施設は複合施設となっており、多様な空間が重層的に設計されている。図書館とジムは住民や研究者など誰でも利用できる公共空間であり、ジムではまち全体として健康意識を高めることを目標として誘致した。また既存の研究所の誘致とまち全体の活気と多様な世代の交流を目指して大学を誘致した。

#### 3-3-4 TONOMACHI INNOVATION TOWN のマネジメント

新たなイノベーションタウンを形成するにあたり、誰がどのように運営・管理・維持するのが重要である。それを表したのが下の関係図である。



図3 全体マネジメント図



図4 全体提案図



図5 水辺空間パース



図6 広場パース



図7 複合施設と水辺の関係断面図

#### 参考文献

- 1) 殿町国際戦略拠点 キングスカイフロント  
[<https://www.king-skyfront.jp/about/>] (最終閲覧日:2023.01.20)
- 2) 殿町3丁目地区パンフレット<第22版>  
[[https://www.urnet.go.jp/produce/case/lrmhph00000023mj-att/tonomachi\\_panf22.pdf](https://www.urnet.go.jp/produce/case/lrmhph00000023mj-att/tonomachi_panf22.pdf)] (最終閲覧日:2023.01.18)
- 3) キングスカイフロント「A地区（一次開発）」  
[<https://www.daiwahouse.com/about/release/house/20180530101751.html>] (最終閲覧日:2023.01.19)